

2022.11.13. 聖書預言アップデート

イエスはこのすべてにどう仰るか？

JD ファラグ牧師

主よ、あなたのお名前を掲げ、栄光のうちにすべての称賛を捧げることができるこの礼拝の時を感謝します。主よ、他に人生を歩む道はありません。時に私たちが足元がおぼつかないときでも、主よ、あなたが共に歩み、掲げて下さり、私たちが背負ってくださる事に感謝します。この時間を祝福していただけますか？ 主よ、こんな素敵な場所、あなたの家で私たちが主の下に集い、あなたについてもっと学び、あなたの聖なる御名を賛美させてくださり心から感謝します。この教えを祝福し、この共に過ごす時間を祝福してください。JD 牧師があなたの御言葉を伝えるとき、共にいてください。イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

おはようございます。ようこそ。来て下さり嬉しいです。ご着席ください。オンラインで参加の方も歓迎します。とても嬉しいです。始める前にさっと言います。感謝祭の木曜日の夜は、聖書の学びはありません。この木曜日から1週間後、もうそこまで来ていますね。11月24日(木)です。メモしておいたほうが良いかもしれませんね。では、日曜日の朝は2礼拝あり、第一礼拝は長年毎週している「聖書預言・アップデート」、第二礼拝は実際には説教で神の御言葉を通して一節ごとに学びます。現在、「第一ペテロの手紙」で、今日は、5章に入り最初の4節です。まず自分自身に問いかけるべき、5つの重要な質問を見ていきます。ミニストリーで主に仕えている人。特に、牧師やリーダーです。参加されたい方、ここにおられる方で、第二礼拝にも残られたい方、それをハワイ時間11時15分から学びます。是非お勧めします。オンラインでご覧の方、ユーチューブやフェイスブックでご覧なら、今からJDFarag.orgへ直接行かれ、検閲不可、中断なしの、今日の「聖書預言・アップデート」を丸ごとご覧になるのをお勧めします。それでは始めましょう。今日、私がしたいことは、現在の世界の出来事に関して、「イエスはなんと仰るか？」という問いに聖書から答えることです。現在の世界の出来事とは、こんにち世で起こっているあらゆることで、特に聖書預言に関連します。ありがたいことに、イエスは御言葉の中で、終わりの日について多くのことを語っておられます。そのため、イエスのたとえ話や説教に焦点を絞りたいと思います。これは、イエスがたとえ話をされ、実は聖書預言の成就だからです。おもに時代の終わりと天の御国に関連します。イエスが説かれた福音書に記されている多くの説教は、たとえ話だけでなく、来たるべき御国について語られました。そうすることで、イエスは教えながら、私たちがイエスのまもなくの差し迫った来臨を待ち望み見張るよう、何をすべきか、なぜそうするのかに答えておられます。以下は順不同で、数ある質問の中から4つだけ紹介します。しかしこの4つは、私たちが何をすべきかということに関連して、最もよく受ける質問です。携挙前の最後の時の重大さを鑑みて。

質問1)：預言された世界的金融崩壊に備え、前もっての準備については、イエスはどのように仰いますか？

この質問はよく受けます。私たちは、特定の経済的アドバイス、医療的アドバイス、あるいは法的アドバイスをする姿勢では決してありません。そうではなく、聖書的な指針を示します。事実、聖書の導きが完璧なアドバイスを与えているから、私たちは本当にアドバイスする必要はありません。私たちの前にあるこの質問はそういう事例です。イエスが説かれた「山上の垂訓」に入ります。「マタイの福音書6章」19節から34節です。経済的にどのように準備するか、という質問に対し、最高のアドバイスです。特に、世界が、預言された終わりに向かって猛スピードで進んでいる今、これは反キリストのデジタル経済

を先導するために、現在の経済の制御された解体であり、私たちが話しているようにすでに進行中です。今、私たちが話している間に、それはもう既に起こっています。イエスはこの懸念に対して、経済的な心配の解決策を示すだけでなく、私たちが前もって経済的準備をすることにどうあるべきかも示しておられます。「マタイの福音書6章19節から21節」を始めます。イエスが話されます。どうか聞いてください。私たちは宝を移す。生活必需品ではなく、私たちが積んできた宝です。私たちはその宝を地上から天に移すのです。なぜか？ 天では、虫やさびで傷物になることはなく、政府が既に計画しているように、壁に穴を開けて盗むこともないからです。皆さんご存知ですね。これは、神が私たちに祝福してくださったものを持っていくことはできませんが、確実に先に送れるという移動です。昔、実話で、ある富豪が亡くなった時の話を思い出します。誰もがこう尋ねました。「彼は資産をいくら残したの？」

答え：全部。ですから、この「移す」は、私たちの宝があるところに、私たちの心もあるという事実から、私たちの心を変える必要な効果があります。ですから宝が地上にあるなら、そこに私たちの心もあります。イエスは、「あなたの心があるところに宝がある」とは仰っていません。

「あなたの宝のあるところ、そこにあなたの心もあるのです。」(マタイ 6:21)

ですから、あなたの宝はどこにありますか？ あなたの宝は天にありますか？ それなら、あなたの心も天にあります。あなたの心はここにありません。あなたの宝はここにはないのだから。このことがあなたとあなたの心を変えます。なぜなら、今、あなたは自分の宝を安全な場所に移したからです。その見返りは？ ほ～！！ あなたは心配する必要はありません。なぜならそう、地上にあればあるほど、地上にあるものを気にせばならないからです。こう言った方が良くもかもしれません。地上に持っているものが多ければ多いほど、地上にある宝を失ってしまう心配をします。これがまた、心配の治療法です。22節から24節、イエスは、この「移す」が私たちの心を変えるだけでなく、私たちの焦点も変えると仰っています。聞いてください。イエスは、体の灯りは目であり、目が暗黒に満ちているか、光に満ちているかのどちらかだと言われました。それをダブルビジョンといいます。それについては、この後すぐ話します。というのも、ダブルビジョンになったら…、こういう描写を許してほしいのですが、言い方はマズイですが、2人の恋人の間で揺れ動く事。2つの宝の間で思い悩む事です。あなたには2つ宝があって、その2つの間で揺れ動くのです。イエスは仰います。「あなたにはそれはできません。どちらか一方しかないんです。」「二人の主人に仕えるべきではありません。二人の主人に仕えなければ良いのです。」とは仰っていません。仰っているのは、「あなたは二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛するか、その逆かです。」ですから、私たちの心がイエスと共にあり、私たちの目をイエスに向ければ、そうすれば、私たちの礼拝と奉仕はイエスに対するものになります。誰も二人の主人を愛し仕えることはできないからです。25節から32節、イエスは、たとえ携挙前に著しく悪化しても、私たちは、経済的な心配を全くする必要がないのはどういう事で、なぜなのかを説明し描写されます。確かにあり得ますし、今でさえそうだとと言えるかもしれません。しかし、イエスは、私たちが心配する必要がないことを私たちに約束し、その理由を説明し、例示されています。なぜ、私たちが心配する必要がないのでしょうか？ OK。イスラエルに行ったことのある方にとって、そう、これは旅のハイライトの1つです。あなたは丘の中腹にいる。美しい。息を呑むほどです。ガリヤラ湖が広がり、祝福の山があり、季節によっては、野のユリが咲き乱れ、華麗に飾られます。ある朝、その日のツアーを前に、朝のデボーションの準備をしていたのを覚えています。私はそこに座って、ガリヤラ湖を見ながら、鳥のさえずりが、お、一度素晴らしかったのは、神がこれをなさるのが大好きです。私は「マタイの福音書6章」を教えていました。

今見ているこの箇所です。イエスが仰います。

「あの空の鳥を見なさい。(6:26)」の箇所を私が話した瞬間、鳥が降りてきて、手すりに止まりました。私はこうです。「お～神様。特殊効果を感謝します。私の説教の描写に完璧です。あなたは知っておられたんですね？」私はあの鳥を指さしました。「主よ、ありがとうございます。描写が終わるまでそのままお願いします。」

しかし、それがイエスのなさったことです「あの空の鳥を見なさい。飛んでいる鳥を見なさい。」鳥たちがパニックになり、納屋を建て、将来へのリスク回避をし、金融崩壊に備え、ミミズを貯め込みますか？馬鹿馬鹿しいのは分かっていますが、それがポイントですね？なぜ、鳥たちは心配しないのでしょうか？天のお父様が養ってくださるからです。神が、神に似せて創造されていない鳥たちを養われるなら、お～神は鳥を創造されましたよ。でも、私たちのように神に似せては創造なさっていません。

「あなたがたはその鳥よりも、ずっと価値があるではありませんか。」言い換えれば、神があの鳥を養われるなら、あなたがたも養ってくださいます。だから心配しないでください。

「ええ、でもハワイでは、空路や海路の食糧供給が全て遮断されたら、何を食べてらいいのでしょうか？」ここへ引っ越した当初、この地で生まれ育った妻に言われました。

「あなた、ハワイでは全く違う、ということを理解しなくちゃいけないの。私たちが手に入れるものすべて、空路か海路で運ばれるのよ。橋も陸路もないの。だから何かが起こったら、でも心配しないで。」

もちろん、私の心配性には博士号があります。心配性な性格が直りました。神は私の人生に深い働きをしてくださいました。でもつまり、心配するのが得意だったから、心配することがなくなったら、尋ねます。

「あなたのために何を心配したらいい？」心配は、ロッキングチェアのような言われます。何かを与えるけれど、何も得られない。ですから、「あなたがたはどれだけの価値があるのでしょうか？」それからイエスは、野のユリの花を指さし、仰います。「栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした。その花は、今日はあっても明日来てみればなくなっています。なのに天の御父は、この花をこのように装ってくださるなら、あなたがたにはもっと良くしてくださらないのでしょうか。あなたがたにはもっと価値があるのでは？」空の鳥や野のユリは、ご自分に似せて造られた神の子どもの私たちのような価値や値打ちはないのです。私たちは父親がいないわけではありません。私たちは父親がいないわけではないのです。33節から34節、イエスは、私たちが神の国と神の義を第一に求めるなら、必要なすべてを与えられ提供されると約束しておられます。そしてイエスは最後に、明日のことを心配しても全く無駄だと断言しておられます。ある人が適切に言った通り、今日はあなたが昨日心配した明日。皆さん、お時間差し上げます。考えてみてください。昨日あなたは、今日を心配しました。それは今日です。昨日、それは明日でした。で、明日を心配すると、明日が来て、「なぜ心配したのか？」それで今日、今から明日の心配をするつもりですか？そして今、明日はあなたが心配するものとなる。しかし今日は、あなたが昨日心配した明日です。あ～、ええ、止めた方がいいですね。先走ってしまいそうです。そうじゃないのに。ポイントは分かりますか？今日、明日を借用してはいけません。苦労は、その日その日に十分あります。(マタイ 6:34)

因みに、あなたが心配することは…、真実が判明しました。私たちが心配していることの90%以上は、決して起こりません。そうすると、腹が立ってくるんですね。ずっと心配ばかりしていたから、何のためだったのか？私のような心配するのが得意な幾人かの方、「100%じゃない。残り数%は？」統計データを引用するのは自由だけど、私が心配していることの99%は起こらないと言われたら、いいけど、1%

が心配です。その 1%とは、たとえそうであっても、神は必要な時に、必要な恵みを与えてくださいます。神の恵みは十分にあり、あなたはそれを乗り越えます。あなたは不必要に心配していた。核心は、馬鹿げているですが、私には馬鹿げた賜物があります。おまけの賜物です。聖句にはありませんが。経済の見通しが悪いとき、上を見上げてみてください。いや、そこなんですよね。私たちは、「今、ここ」に超集中します。聖霊によってイザヤ (26:3) が書いた通り、「主は、志の堅固な者を全き平安のうちに守られます。」ですから私の心が天にあり、私の目を天に向け、私の焦点を天に向ける。私の宝が天にあるから。あなたは、何を心配していたのでしたっけ？

質問2)、これはデカいです。全部デカいですが、よくある内容です。

質問2)：イエスは、携挙が近いのに、将来の計画を立てる必要性について、どのようにおっしゃいますか？ 何がポイントか？ 何の役に立つのか？ あなたが、私たちクリスチャンの最大の苦悩は何かと私に聞かれたら、これがリストのトップでしょう。携挙に備えることと、将来の計画を立てることの間に、ある種の相容れなさを感じるからこそ、リストトップにあるのだと思います。この 2 つは相容れないものだと思います。互いに競合することはありませんが、実は、互いに補い合うものです。繰り返しますが、イエスは「ルカの福音書 19 章」11 節～27 節に記されているたとえ話の中で、このことについて語り、実際解決されます。残念なことに、その解釈は誤訳や誤解があります。理由は、

「10 ミナのたとえ」として知られるたとえ話は、他のたとえとは全く異なり、ある人が考え、また教えているようなことは語っていません。すなわち、イエスが来られるまでの間、どのように、そして何に従事するか、ということです。間違いなく、何度も引用されたのを聞いたことがあるでしょう。再度、悲しい事に誤引用です。「ええ私たちはイエスが来られるまで忙しくするぞ。」さて、イエスの仰る「イエスが来られるまで忙しくすること」について理解するため、まず理解する必要は、イエスが何を仰ってはいないか、です。これから見るように、イエスは、お金について仰っているのではなく、ミニストリーについてを仰っています。しかも、聖職者だけに語っておられるのではなく、言わば信徒です。

この有名で、よく引用され、誤解釈される「イエスが来られるまで忙しくする」というたとえは、福音を表すミナ(当時のお金の単位)に相対し理解されます。私たちは、イエス・キリストの福音を託されています。どうか私がこれを言う時の、私の心を聞いてください。それは、共和党の福音ではありません。それは、民主党の福音ではありません。アメリカの福音ではありません。愛国主義の福音ではありません。イエス・キリストの福音です。イエス・キリストという人にある救い、それが福音です!!! 私は怒っていません。そうかもしれません。分かりませんが。もちろん正義の怒りです。しかしこれは、大変熱くなり個人的です。主が来られるまで忙しくすると聞くとゾッとします。

「私たちは、神から託されたものの良き管理人でなければなりません。」へ～本当に？ つまりあなたは、主が来られるまで忙しくするから、このたとえ話の雛形を世俗に重ね合わせ、自分の好きなように権利を与えるのですか？ それはイエスが仰っている事ではありません。あなたは、謙虚に尋ねますが、これを検討するのでお付き合いくださいますか？「ルカの福音書 19 章」、11 節から 13 節です。イエスは、このたとえ話を詳しく、具体的に教えておられます。彼らは神の国がすぐに来ると思ったからです。ですから、ご自分を遠い国に行つて王様に任命され帰ってくる高貴な人に例えておられます。イエスはそれを話される前に、10 人のしもべにそれぞれ 1 ミナずつを与えご自分が戻るまで忙しくするよう指示されます。それが欽定訳です。他の翻訳では、イエスが来られるまで仕事をすると表現しているものもあります。(日本語聖書も然り) イエスが来られるまで忙しくすること、以下がイエスの仰っている事です。

「忙しくして、福音を働かせなさい。それを広め、王国のために働くことで王国を拡大しなさい。」それぞれのしもべ（10人）が等しく1ミナを受け取ることで証明しています。これは他の例え話、タラントの話と異なります。使用人である執事がそれに応じて比例して与えられるからです。ここは違います。全員に厳密に1つ渡されます。それが福音です。これらは、福音のミナを託されたクリスチャンたちです。神のこと、神の国のことで忙しく働くために。14節から25節、イエスは続けて、戻って来られる時のことをこう仰います。一人目のしもべは10ミナを二人目のしもべは5ミナを得ました。しかし、3人目のしもべは、これは非常に重要です。怖くてうずくまり、ためらってしまった。彼は福音を恥じていたのです。彼は、福音を伝えることを恐れていたのです。それで、彼はどうしたのか？ そう彼は、しまっておいた。彼は1ミナ、福音をハンカチの中に持っていて、光を覆い隠してしまうようなもので輝かない。これに対する答えは、その1ミナは取り上げられ、それを1000%にしたしもべに与えられます。この一人のしもべを、他の例え話に出てくる他のしもべと同じように考えると、私たちは大きな間違いを犯すと思います。すぐに説明します。26節から27節、イエスは、敵の扱いを仰います。しもべではありません。イエスに自分たちの王になって欲しくないとはっきり言っていた敵たちです。そこで貴い人は、敵を連れてきて御前で殺させましたが、特に恐れてミナを隠したしもべは含まれていません。なぜか？ その理由は、これは救われているしもべです。1ミナを貰って、忠実にそれを広めず隠して、王国を拡大させなかったにもかかわらず。皆さん一緒にこれを考えてください。なぜなら、再度これは、願わくば、私は牧師たちに話します。私もその一人です。願わくば、神聖なものを冒涇したり、一般化したり、世俗化しませんように。これは、預かったものを言い訳に使うという意味ではありません。そうではなく、私たちは申し開きされます。怒りに満ちたものではなく、それは、キリストの御座、裁きの座です。私たちに報酬を与えて下さる場所です。この人はそこへ行きます。たとえ話の中で、仮にも彼は救われているからです。しかし、彼は忠実ではなかった。そう、彼は忠実ではありません。イエスは最後に仰れたでしょうに。「入りなさい。忠実なしもべよ。」それなら彼は救いを失ったのか？ 彼が救いを失ったなら、救いは、忠実であることが前提なのですか？ 救いが忠実であるのが前提なら、恵みの救いではなく、行いの救いになります。なぜならそう、救いを受けるために私は何かをせねばならないから。いいえ。あなたは救われています。ではあなたの報酬は？ 天国で誰かがこう言うなどと一瞬たりとも思わないでください。「ほ～、彼の豪邸を見て。彼の冠を見て。僕はプロペラ付ビニールの帽子だ。」やり過ぎですね。分かっています。でも皆さん、ポイントは分かると思います。この時点で、必要な笑いかもしれません。はい、このことは、携挙が差し迫っていて将来の計画を立てる必要性について、イエスはどう仰るのだろうかという問いに答える上で、非常に重要です。意外に思われるかもしれませんが、世俗の場にいる人も、神聖な場にいる人と同じようにチャンスがあります。そう、このようなたとえ話の難しさは 私たちがこんな誤った考えを持つからです。間違った考えです。

「お～あなたは聖職者なんですね。（私は相応しくない）私はただの信徒です。聖職があなたの仕事ですね。」お～気をつけた方が良いでしょう。私の仕事を知っていますか？ 皆さんをあの手この手で働かせるために備える事です。私たちは皆、伝道の働きをするのです。

「私は伝道しませんよ。伝道するための手段の伝道するための賜物がないから。」それで私たちは専門家、牧師、聖職者に目を向けます。ちょっと待ってください。聖職をしていない人は、聖職をしている人よりも効果的だと言えるかもしれません。私の話の向かう先は、聖職に就いていない人は、職業上、独自の位置づけをされています。敢えて言います。「職業」occupy：忙しくする occupation：職業

私のような牧師には届かない人々のところへ辿り着くため。聞いてください。私は多くの会話をしてきました。こう質問が来るのは分かっています。

「お仕事は何をされているのですか？」あ”～「私は、○■▽です。」－(笑)－
恥じているわけではありません。特権ですから。しかし、ここで私が消極的になる理由は、私が牧師だと言ったとたんバ～ン！壁が出来ます。大抵こう言われます。「お！私のフランス語をお許しください。」
彼らは完全に態度を変えます。私はただ言います。「フランス語じゃありませんね。」私の父は高校で、外国語の教師をしていて、フランス語を教えていました。それはフランス語じゃありませんね。はっきり分かります。しかし、言ってみれば、聖職者と信徒の間には、言わば隔たりがあるのです。なぜなら、私は牧師で、私は専門家。私は、皆さんには可能な他の人の人生に話すことはできません。なぜなら皆さんには彼らとの人間関係があるからです。皆さんは、そこに辿り着くことができます。実際、提案してもいいですか？ あなたがその仕事を持ち、事業を所有し、キャリアを追求し、学問を深めている理由は、その領域で、働きをし、広めるためのミナ（福音）があなたにあるからです。生徒は、学校内で福音を巡らし、王国を拡大するため福音のミナを託されています。教師も同様です。企業の中の従業員も同じです。でも、雇用主のお金でははいけません。それでは忠実ではありません。盗みになります。彼らの金でははいけません。恐ろしい証人になります。しかし、あなたはその事業に参加して、その事業に雇われています。あなたにミナ（福音）があるからです。あなたにミナが、福音が、与えられています。それを仕事に生かす必要があります。事業主、聖職に入る前、何年も自分で事業を所有しながら、私はいつも自分の事業をミニストリーとして、ミニストリーを私の事業として見ました。神はそれを祝福下さいました。神はあなたにこの事業を与えられました。でも、あなたにミナがあります。あなたにミナがあります。もちろん、神から祝福され、託されたものの良き管理人でありたいと思いますよね。しかし あなたが託された最も重要なのは、「福音」です。このように言い換えてみましょう。私やあなたが所有する最も価値あるものは、家でも財産でもありません。私たちが持っている最も価値あるものは、「救い・福音」です。このことについてもう1つ。実はもう1つだけではないですけど、もう1つのもう1つ、これはとても重要です。あなたが所有しているものではなく、何があなたを所有しているのかです。所有することは悪いことではありません。悪いのは、所有物があなたを所有している時です。それらに心を奪われないでください。あなたの愛と献身を奪われないでください。どうか、主のものですよ。あなたの心は主のものです。真実は、あなたは何も所有してません。主のものです。あなたは管理しているだけです。主がすべての所有者です。あなたは何の所有者でもありません。おやまあ、それはまた別の機会の別の学びですね。時間がないので、私に話し始めさせないでください。皆さんの助けが要ります。自分から話し始めてしまうので。OK。結論は？ 結論はこうです。将来の計画についての質問というより、私たちの計画の中で、計画を通して、私たちのミナを増やしていくことが重要です。言い換えれば、イエスが来られるまでの間、私たちが本当に忙しく働く希望なら、私たちは、福音を広め、王国を拡大するための手段、道、機会として、神が私たちに召されたものが何であるかを見なければなりません。王国の拡大を第一に求めるなら、私たちが神と神の義と神の国を求めるなら、言い方はマズいかもしれませんが 神からの義務のようなものです。神は御言葉に責任を持たれます。あなたの仕事の目的が神を讃えることなら、神はあなたを祝福し繁栄させられるという御言葉を与えておられます。それを祝福しないわけがあらけません。そのために主が用意されないわけがありません。それが、携挙が近いのに、将来の計画を立てているという質問に対する答えです。それが、イエスが来られるまで忙しくするという意味です。

もう一度言います。計画を持つのはいいですが、その計画があなたを所有しないようにしてください。そして、その計画に強くしがみつかないことです。個人的に私は、長期的な計画を立てています。実現させるつもりはありません。正直なところ。でもあのラッパが鳴ったら、イエスが来られ、主の御国のことで忙しくしている私を見つけてほしいのです。イエスに、一生懸命働いている姿を見てもらいたいです。私は仕事中毒です。ですから、それは私にとって問題ではありません。事実、別の問題ですが、私の問題はもう十分です。神の御国のために大変忙しくしている所を見つけてほしいです。主のために全力を尽くし、心を尽くして働きたいのです。しかし、確かめてください。これが最後の "最後" です。必ず、あなたの計画に、福音によって王国を拡大する優先順位を中心に据えてください。言っておきます。絶対に失敗しません。イエスが来られるまで忙しくするというのは、そういう意味です。

では、質問3)です。皆さんいかがですか？　ここまで大丈夫ですか？　まだ、誰も出て行っていませんね。質問3)、難しい質問です。

質問3)：終わりの時の教会において、分裂と不和が激化していることについて、イエスはどうか仰るでしょうか？　どうかお付き合いください。個人的には一番の難点ではないとしても、最も難しい問題の一つであるというのが正直なところですが。これには大変苦勞しています。しかし、ありがたいことにイエス以外の答えを探す必要がありません。イエスがその答えだからです。また再度、必ずしも、あなたが考えているようなことではないかもしれません。というのも、終わりの時の教会の状態は、実はこれから見るように聖書預言成就だからです。「マタイの福音書 13 章」本当に驚異的です。この章には、7つのたとえ話があります。その7つのたとえ話のうち、24 節から 43 節までの3つに注目していただきたいと思えます。

1 日目：麦と毒麦のたとえは、偽クリスチャンによる混乱です。

2 日目：からし種と鳥のたとえは、偽りの成長による妥協と腐敗です。

3 日目：パン種とパンのたとえは、偽りの教義による欺瞞です。

この3つのたとえ話がすべて、終わりの時、イエス・キリストの教会がなぜこれほどまでに分裂し、欺かれ、今の状態にあるのかという疑問に答えます。「マタイの福音書 13 章」、24 節から 30 節から始めます。繰り返しますが、36-43 節でイエスは、麦と毒麦のたとえを教え説明しておられます。終わりの時、収穫の時期まで成長するまでは、同じように見えます。たとえ話の中に、こんな質問があります。「その中から毒麦を抜き集めましょうか？」なぜなら、そうまず、私は小さな田舎町で育ちました。小麦の収穫期に、穀物を運ぶトラックを運転するのですが、大変緊急でしたよ。その収穫をしなければ、失うことになってしまいます。そのせいで、学校が遅れることもありました。しかし、畑、麦畑では、毒麦が最初は、麦と全く同じように見えます。「ネズミムギ」という翻訳もあります。見分けがつかないほどです。このたとえ話でイエスが仰っているのは、「敵が来て、麦の間にこの毒麦をいれた。あなた方には最後まで見分けがつかありません。」しかし、それが問題なのです。一旦見分けがついても、麦と毒麦を一緒に抜き取ってしまうからです。これが、終わりの時の教会に混乱と分裂が起こる理由です。偽クリスチャン/毒麦が混乱させ、分裂させ、欺くのです。31 節から 32 節、イエスがからし種のたとえを教えおられます。興味深いのは、からし種は非常に微小でサイズが小さく、からし菜は木にならないことが分かっています。異常です。茂みで、木にはなりません。このたとえでは 異常な成長を遂げました。これが非常に大きくなって、それで鳥が枝に巣を作りに来るほどです。これも理由を説明するものであり、また、終わりの時の教会の状態についての預言です。どうしてですか？　なぜなら鳥が悪と結びついており、畑に植えられた毒麦のよ

うに、教会の枝に巣を作り、混乱させ、惑わし、分裂させます。33節から35節、イエスは、パン種を膨らます女のたとえを説かれました。これは非常に重要な詳細です。初読時に見逃されます。彼女はそれを、これまた異常なほど大量の小麦粉に混ぜ込みます。そして彼女は、生地全体に行き渡るまで、パン種を混ぜ続けます。はい、そのパン種とは？ 聖書の中の罪の型です。罪がパンに混ざって非常に大きく膨らみ成長し、終わりの時まで、教会を通じて影響を与えます。使徒パウロは言います。

「わずかなパン種が、こねた粉全体をふくらませるのです。」(ガラテア 5:9)

偽教義の小さなパン種が教会全体に広がります。既にそうになっています。終わりの時の教会の分裂と不和が激化していることについて、イエスはどうか仰るのかという質問に戻ります。

答え：聖書預言によると、敵は、終わりの時の教会に、偽クリスチャンの毒麦、偽りの成長の鳥、偽教義のパン種を浸透させています。このように纏められると思います。

偽クリスチャン + 偽りの成長 + 偽教義 = 混乱、欺瞞、不和/分裂。

質問4)、4番目で最後の質問、今日の残りの時間で取り上げます。しかしそのため、先に進むので、ここでユーチューブとフェイスブックでのライブ配信を終了します。

一本編一

質問4)：コロナや注射にまつわる恐怖や不安について、イエスは何と仰るのでしょうか？

この答えは実にシンプルなのですが、多くのクリスチャンの考え方、つまり間違った考え方に反するという意味で、少々難しいです。これに関し、イエスはどうか仰るのか？ の前置きとして、このパラドックス(逆説)を理解することが最も重要です。逆説的に言うと、この世とこの世のものにしがみつくとクリスチャンにとって、これは難しいことで、それを守ろうとすれば、それを失うことになる事に、気づかないのです。宝がここにあるから、心もここにあり、この2つの間で悩みます。それが逆説です。私たちは世にいますが、世のものではありませんから。私たちはこの世から取り去られるのです。この世が私たちの家ではありません。なぜここに定着しているのですか？ 木曜の夜の礼拝「エレミア書」の学び、おおなんと、35章と36章は。この「エレミア書」の全章について毎週言ってますけど、非常にピッタリなのです。レカブ人という民族が紹介されています。彼らは実は、モーセの義理の父であるイテロの子孫で、彼らの父であり、先祖は、エレミヤ書35章の記述の約300年前に、この世を緩く持つよう命じられました。事実、彼らは家を買ったり、ブドウ畑を作ったり、ワインを飲まず、彼らは天幕に住み、遊牧民として生活しなければなりません。この学びから得た多くの教訓の中の教訓は、私たちは通り過ぎているだけということです。私たちは皆、遊牧民です。根を深く掘り下げすぎはいけません。定着しすぎはいけません。レカブ人のように。機敏に動き回り、準備万端でいる。あのラッパが鳴り響くと私たちは引き上げられる。この世に執着しすぎたら、では、「マタイの福音書16章24~27節」イエスの言葉を聞いてください。

—マタイ 16:24—

それからイエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架(死)を負って、わたしに従って来なさい。

—マタイ 16:25—

自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者はそれを見出すのです。

—マタイ 16:26—

人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら何の益があるでしょうか。そのいのちを買い戻すのに、人は何を差し出せばよいのでしょうか。

—マタイ 16：27—

人の子は、やがて父の栄光を帯びて御使いたちと共に来ます。そしてその時には、それぞれその行いに応じて報います。

このような前置きをした上で、コロナと注射にまつわるすべての恐れや不安について、イエスは何と仰るのか、という質問に答えることができます。でも質問です。注射は、ひと皮むけばその正体は、この世での生活やライフスタイルを失う恐れ、命さえ失う恐れだと皆さん同意されますか？人がこの喪失の恐れに黙従することは、非常にこう物語っています。”私は人を恐れ、神を信頼していない。この世での生活に固執し、だから黙認した。”_____を失いたくなかった。(皆さん空欄を埋めてください)でもちょっと待ってください。それって逆説です。イエスは、守ろうとすれば失うと仰いましたから。そして逆に言えば、失えば、守れるのです。そう、そう、そうなんです。としか言いようがありません。本当ですか？(会衆：アーメン)それが恐れです。失うことの恐れです。この世で自分が持っているものを失うことへの恐れ。手放してください。守ろうとすれば失います。それが逆説です。キリストにある信仰と呼ぶこの信仰が、逆説的な信仰だと、クリスチャンが早く気づけば気づくほど、より良いです。上がる道は下る道。生きたいなら、(自分に)死ぬ。それは私たちの罪や人間性、アダムの性質の全てに反することだと分かっています。でもそれが真理です。この世にあるものにしがみついている人たち、私はこう言います。「燃えてしまうんですよ！！」取り組む時間のない分野に入ろうとしています。時計を見ないでください。それについて、イエスはこう仰っています。「マタイの福音書 10 章」26 節から 28 節です。

—マタイ 10：26—

ですから彼らを恐れてはいけません。おおわれているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずにすむものはないからです。

待ちきれません。

—マタイ 10：27—

わたしが暗闇であなたがたに言うことを、明るみで言いなさい。あなたがたが耳もとで聞いたことを、屋上で言い広めなさい。

叫びたければ叫べばいいのです。(笑) —そして 28 節、

—マタイ 10：28—

からだを殺しても、たましいを殺せない者たちを恐れてはいけません。むしろ、たましいもからだもゲヘナで滅ぼすことができる方を恐れなさい。

わお～この強さ。イエスがここで仰っていることの意味は把握しがたいかもしれませんが、真理は、このすべては永遠と関係します。そして、この理由から、このことの前述のような難点は、この世のために生きるクリスチャンの考え方に反する事です。逆に言えば、既にこの世を手放し、この世の命に死んだクリスチャンこそ、この世に起こることを恐れないでしょう。私たちがとっくに長居しているこの世、私たちの家ではない世です。神は私たちを永遠のためにご創造されました。私は決してこの大虐殺の深刻さを否定しているわけではないのを理解ください。これは大虐殺です。むしろ、この大虐殺が故に、携拳の間近さを深刻に受け止めています。現在の、これらのいわゆる「人殺し接種」は、今ここでしか人の体を殺せません。しかし、限りなく深刻なのは、人の永遠への問題です。それが重要なことの全てです。共に過

ごすこの時間を締めくくる前に、このコロナ注射についてももう少し詳しく説明しないと大失態になると
思います。大胆に言えるなら、この悪魔的悪に黙って加担することは、聖書預言を成就していて、また私
たちに必要な別の質問の理由、「なぜ教会がこんなにこのような状態なのか」悲しい事に、人々は、この終
わりの時、薬剤での敵の惑わし「黙示録 18 章 23 節」を知らずに、まるで屠り場に向かう子羊のように
引っ張られていきます。魔術/sorcery (黙示録 18:23) は、ギリシャ語で、ファルマキア。英語の薬剤・
医薬品の語源です。バビロンが崩壊する時、彼らが裁かれるのは、全ての国民を欺いたその魔術 (薬剤)
が故です。こんにち、地上の”すべての国々”が、この薬剤の欺瞞に騙されていると私は躊躇することなく
力説します。この件に関して、世界中の人々から大量のメールやコメントを受け取り続けていて中には
本当に胸が痛むものもあります。それらが、たとえ話同様に、混乱、妥協、腐敗、欺瞞が、どうやって教
会の領域や枝に入り込んでいるか実証しています。ありがたいことに、欺瞞を暴くような、大変有益なメ
ールやコメントも貰っています。特に医療関係者からです。その中から、ジョン・シャープさんからの
メールを紹介したいと思います。

「こんにちは、JD。11月6日の預言・アップ、インフルエンザワクチンについての言及についての参照
です。私は30年以上、登録呼吸療法士で、病院のあらゆる場所で患者への直接ケアをする仕事をしてい
ます。毎年、インフルエンザワクチン接種を開始する時期になると、時間ぴったりインフルエンザも流行
し始めます。殆どの方は、自分を守るため接種すると信じていますが、実は接種者が感染し、未接種者に
広めています。2019年の終わり頃、インフルエンザワクチンを接種後来院した患者に異変が現れ始めま
した。それが何なのかは分かりませんでした。結果的に、振り返ってみると、2020年に向けてのコロナ
でした。アメリカで発表される前にカンザスで見っていたんです。こうなった原因は1つしかありません。
インフルエンザワクチンから引き起こされたのです。サタンは、なんと巧妙な欺瞞に満ちたことをする
のでしょう。誰も予想していなかった。誰もがそれを接種し、信頼するよう仕向けられました。面白いこ
とに、2019年から2020年にかけて、インフルエンザの流行はありませんでした。... (覚えていますか？
そのことは話しましたね) 奇跡のように。...多くの方が騙されてコロナワクチン接種し、またインフル
エンザワクチンを通してコロナワクチンをブースターとして接種し続けていると思います。この人たちは
拡散者です。ところで、ここ数年、インフルエンザはほとんど流行していません。コロナの菌の系統が違
うだけです。年末から春にかけて、ウイルス性の何かが急増するのは、偶然ではなく、時間通りなのです。
JD、あなたのミニストーリーに感謝します。まもなく空中で会えるのを楽しみにしています。マラナタ。」
楽しみです、兄弟。もう2年半以上も前から、私も皆さん同様、コロナの結果、多くの人々がイエス・キ
リストの救いに辿り着くのを目にしてきました。これが起こる理由は、神は救われていない人に手を差
し伸べるためあらゆる事をされ、手段を選ばれません。誰一人滅びることがないよう、それが神の御心だ
からです。そう、終わりの今、世で起きていること、それは完全に終わりの時で、悪です。
しかし、神は。神だけが御出来になられるご方法で、益にされ、多くの人を救われます。「創世記 50 章
20 節」、他のお気に入りの聖書全書と共に、私のお気に入りの箇所です。ヨセフが兄弟たちへ言います。
彼が兄弟に全てをされた後です。

一創世記 50:20-

あなたがたは私に悪を謀りましたが、(しかし) 神は それを、良いことのための計らいとしてください
ました。それは今日のように、多くの人が生かされる (救われる) ためだったのです。

そうです！ 金曜日に貰ったメールを紹介したいと思います。ザック・サマーズさんからです。

「神の導きで、ユーチューブのあなたの聖書預言の動画を見ました。正直なところ、私はあまり信者ではありませんでした。しかし、あなたの最新の動画を見て、私は自分の人生をイエスに捧げることに決めました。神を褒めたたえます。感謝します。」

はい、主を褒めたたえます。一拍手喝采

これを言うと飽き飽きしないでほしいのですが、誰かに、御世辞を言って地獄に行かせるよ怖がらせてでも天国に導きたいのです。OK。これが「聖書預言・アップデート」をする理由です。これが「聖書預言・アップデート」の目的です。これが、イエス・キリストのミナ=福音（ゴスペル）と、子どもにでも分かる救いのシンプルな説明「救いの ABC」で締めくくる理由です。

A とは何でしょうか。A：自分が神に背いた罪びとであるのを、シンプルに Admit/認める。

自分が罪びとだと認めると、救い主が必要だと気づきます。

ローマ人への手紙 3 章 10 節に書かれています。

「義人（正しい者）はいない。一人もいない。」

ローマ人への手紙 3 章 23 節がその理由、

「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、」

ローマ人への手紙 6 章 23 節、

先に悪い知らせと、それから良い知らせがセットになっています。悪い知らせは、全ての罪には罰則があるということです。

「罪の報酬は死です。」（ローマ 6:23a）

これが悪い知らせです。しかし良い知らせがあります。

「神の賜物は私たちの主キリスト・イエスによる永遠の命です。」（ローマ 6:23a）

報酬と、賜物（贈り物）。その贈り物は、誰かが買ってくださいました。イエスが購入されました。

私たちは自分のものではなく、代価を払って購入されたのです。（I コリント 6：19-20）

イエスが支払って下さったその贈り物、永遠のいのちを私たちに差し出して下さっています。それが福音（ゴスペル）です。イエスが（地上に）来られ、十字架に掛けられ、葬られ、3 日目によみがえられ、そして、イエスはある日戻って来られます。私たちをこの世から連れ出され御父の家の私たちの為に用意された場所へ連れて行って下さるために。次が B、中心です。

B：あなたの心でイエス・キリストが主であると Believe/信じる。

神は、実に、そのひとり子（イエス）をお与えになったほどに世を愛された。（ヨハネ 3：16）それは御子（イエス）を”信じる”者が、（罪の赦しの為にイエスに信頼を置く者が）

ローマ人への手紙 10 章 9-10

「あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。」

これが C に繋がります。B の表現です。心で信じると、心からの思いが口から出ます。

再度、ローマ人への手紙 10 章 9-10 節

「あなたの口でイエスは主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。」

「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」

最後に、ローマ人への手紙 10 章 13 節、これが全てを物語ります。

『主の御名を呼び求める者はみな救われる。』

かなりシンプルでしょ？ それが福音です。あなたが主の御名を呼び求めたことがなく、罪の赦しの為にイエスを信じたことがなく、自分の罪を認めたことがないなら、主の完璧な義の基準に達しないのです。今日あなたに切に願います。手遅れになる前に、永遠のいのちというあなたの人生で最も重要な決断をされるのを。手遅れになる前に。

それでは、今日の「しかし、神は。」の証です。お～これは特別です。ピア・アンボードさんからです。スイスにいる私の大切な友人です。

「シャローム、JD。まず、私のウォッチマン・テレグラム・グループからのご挨拶をさせてください。私たちは皆、あなたの側に立ちます。彼らはいつもドイツ語の翻訳を喜んでいます。ほとんどの人が英語を理解できませんので。真理を語り、勇気ある牧師について行くのは、すべての人にとって本当に大切です。悲しいことに、ヨーロッパのドイツ地域には、あなたのような牧師はいません。ですから、私たち全員、心から感謝します。私たちは皆、イエスがいつもあなたとご家族を四方八方から包んでくださるよう祈っています。特に一部の兄弟姉妹から、あなたに対して多くの攻撃があるはずですが。ヨーロッパの人々は、福音に対してあまりオープンではありません。コロナ以来、売春街でさえも、彼らはまるでロボットのようなのです。(スイスでピアが伝道している地域です) 携挙後に彼女たちが、私の「取り残された」手紙と聖書を見つけることを願っています。私はますますモードが上がっています。重要なのは、彼女たちが、たとえ患難時代を経験したとしても、永遠ではイエスと過ごすことです。では私の個人的”しかし、神は”の証を言います。神のお働きに本当に励まされたのでシェアします。私がスイス政府の軍事部門に勤務している事はこれまで話していなかったかもしれませんが、99%が完全接種者でしょう。昨年、職場の同僚が間接的に私の「死」を望んでいました。その同僚は、コーヒータイムに言いました。

「ワクチン接種したくない者は全員コロナのせいで苦しんで死ぬべきだ」と。彼は私が未接種なのを知っていたし、今も知っています。上司を含む同僚全員がそれを知っていて、私とその全てについてどう考えているかも知っています。私は職場に行き、できる限り忠実に仕事をし、いつも言いました。

「神が私と共に、私のためにおられるなら、誰も私に敵対できない。」2週間前、上司から「年末に業績賞与をもらえる」と言われました。本当に驚きました。実際、なぜ私がこれを貰えるのか分かりません。いつものように自分の仕事をしただけで、最初に思ったのは、特別な仕事をしたわけではないので、ボーナスをもらう資格はないということでした。なぜ私がボーナスをもらえるのか、未だによくわかりません。上司は、私がいつも誠実に職場に来ているとしか言いませんでした。私は少し笑って言いました。"職場に来るのが仕事です。この仕事が好きですから。"だから、私にとって本当に神様が下さった贈り物です。神は私たちを大切に思ってください、いつも子どもたちを驚かされます。神が私たちを、私を大切にして下さることに今でも感動しています。とても感謝し、主を賛美します。多くの祝福がありますように。(私は彼女がこう書くのが好きです。彼女は全てのメールをこう締めくくります。) 0.1秒でも早く…マラナタ。愛を込めて。ピアより。」そうです！ 主よ、ありがとうございます。

ご起立ください。カポノ、上がってきてください。これ好きです。これは、キリストにある姉妹が、自分の仕事を自分のミニストリー、自分の使命とし、福音のミナを働かせている良い模範です。主よ、その事を感謝します。

天のお父様、あなたに心から感謝します。主よ、私たちはあなたにすべての栄光を捧げ、あなたの聖なる御名によって、すべての栄光を捧げます。

主よ、今日あなたの御言葉の中で学び、見て聞いたことが根付き、あなたの御言葉の種が私たちの心のしなやかな土壌に降り注ぎ、発芽し、芽吹き、多くの実を結ぶことができますように。主よ、あなたの御言葉が、鏡のように、私たちに私たちを、私たちに必要な修正、必要な改変、必要な変化を見せて下さるよう祈ります。

主よ、私たちが、あなたの御言葉を聞くだけで、御言葉の実行者にならずにそこから逃げたりしないよう祈ります。もしかしたら、ある種のパラダイムシフトが誰かに起きているかもしれません。そうなりますように。私たちが知っている通り、この終わりの時に、あなたの民として大変必要な聖書的視点です。

主よ、ありがとうございます。イエス様、あなたが私たちの答えであり、私たちにある希望であられるのを感謝します。主よ、ありがとうございます。あなたを心から愛しています。イエスの御名において。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7